

経済レポート

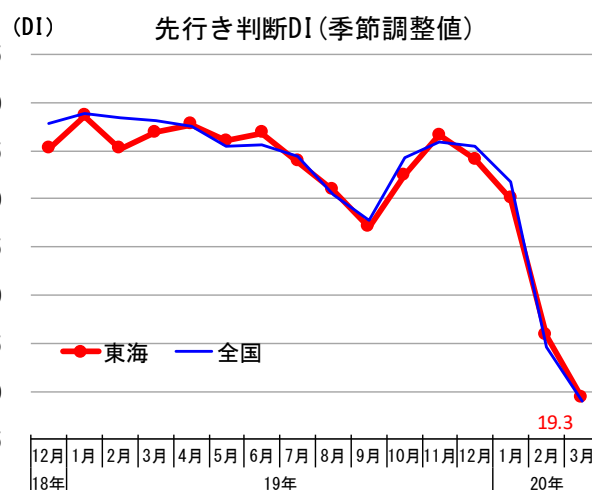
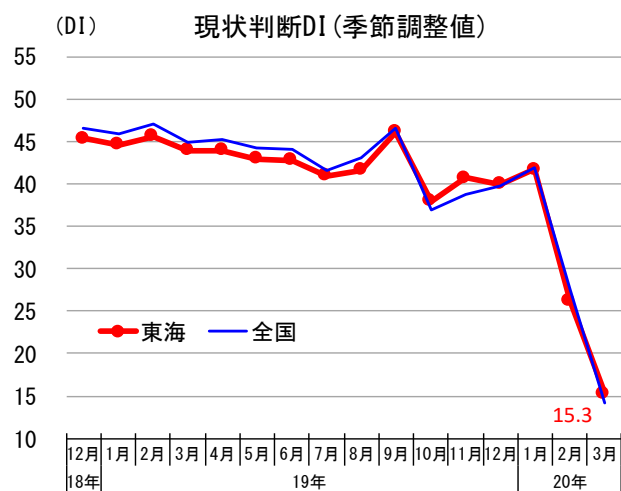
景気ウォッチャー調査(東海地区:2020年3月)

～ 新型コロナウイルス感染症の影響でDIの大幅低下が続く～

調査部 主任研究員 塚田裕昭

- 4月8日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の3月¹の

**現状判断DI(季節調整値)は、前月差-10.9ポイントの15.3と大幅に低下した。
先行き判断DI(季節調整値)は、前月差-6.5ポイントの19.3と大幅に低下した。**



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化している。先行きについては、一段の悪化が懸念されている。

とまとめ、判断を維持した。

(前月のまとめ)

「新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化している。先行きについては、一段の悪化が懸念されている。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

新型コロナウイルス感染症の影響により、極めて厳しい状況にある。先行きについては、一段と厳しさが増すとみている。

とまとめている。

(前月のまとめ)

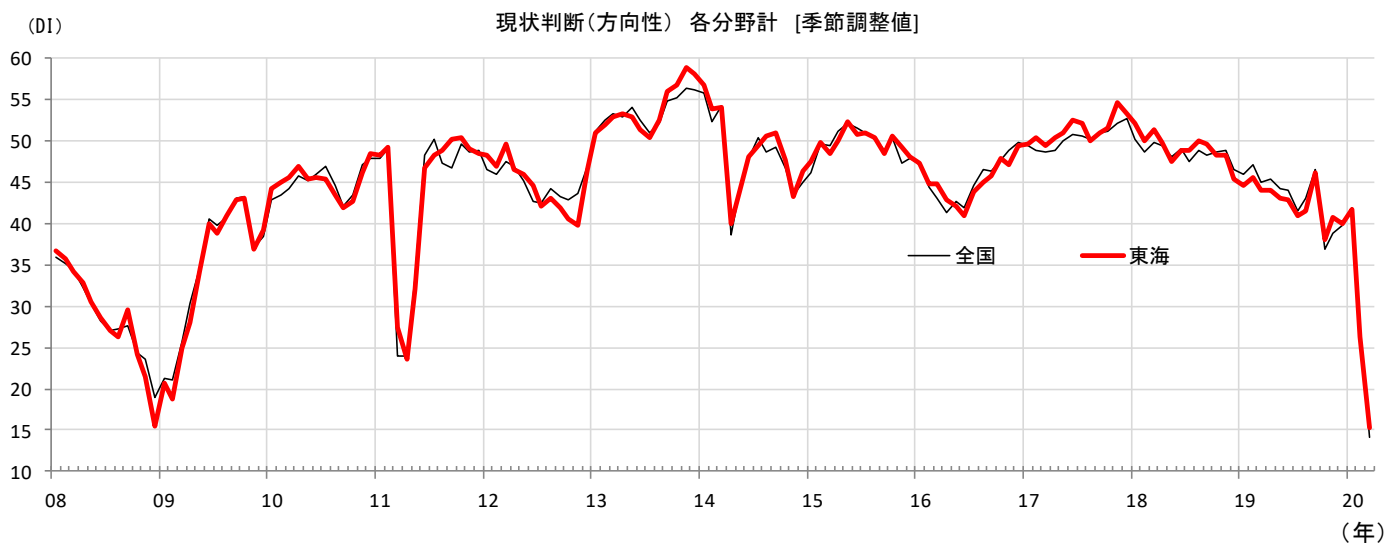
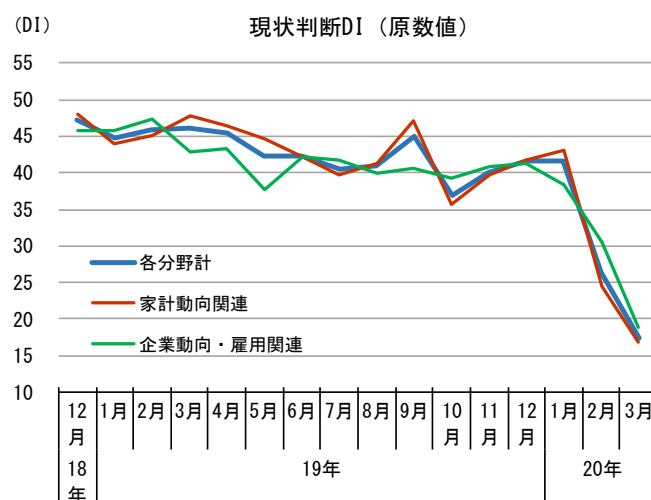
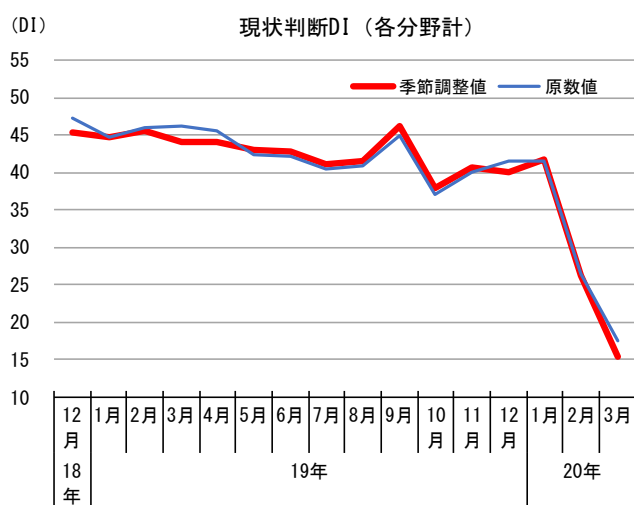
「新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に厳しい状況となっている。先行きについては、一段と厳しい状況になるとみている。」

¹ 調査期間は毎月25日～月末

1. 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

(1) DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI²(季節調整値)は、前月差-10.9ポイントの15.3と大幅に低下し(2ヶ月連続)、横ばいを示す50を24ヶ月連続で下回った。新型コロナウイルス感染症の影響による悪化により、リーマンショック後につけた最低値(2008年12月=15.5)を下回った。新型コロナウイルス感染症が家計の消費活動、インバウンド消費、企業活動に悪影響をもたらしている。回答者数の分布をみると「悪くなっている」が過半数となった。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同-7.7ポイントの16.8とで大幅に低下し(2ヶ月連続)、横ばいを示す50を23ヶ月連続で下回った。また、企業動向関連と雇用関連からなるDI³は、同-11.7ポイントの18.8と3ヶ月連続で大幅に低下し、横ばいを示す50を16ヶ月連続で下回った。



² 本調査のアンケート・サンプル総数は226、うち家計関連150、企業・雇用関連76。以下、先行き判断についても同様。

³ 企業動向関連と雇用関連からなるDI(原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

【家計動向関連】

- ▶ 新型コロナウイルス感染症の影響で、小売、観光など自粛の直撃を受けた業種を中心に悪化コメントの増加が続いている。

×	商店街(代表者)	売上が3割程度に減っている。7割減である。
×	一般小売店[土産](経営者)	2月27日の政府発表を境に観光客は姿を消した。かつて経験のない落ち込みである。来客数は半分はおろか3分の1程度に落ち込んだ。日本沈没、世界沈没以外のコメントは思い浮かばない。
×	百貨店(計画担当)	新型コロナウイルスの影響で特にターミナル駅周辺に近づきたくない人が多く、尋常ではない来客数になっている。また、今まで売上増をけん引していたインバウンド客も皆無となり、ダブルパンチになっている。
×	コンビニ(企画担当)	3月以降急激に売上が悪化しており、前年比70%近くに落ち込んでいる。また、インバウンドの影響を受けている店舗は、前年比30%台まで悪化している。
×	高級レストラン(経営企画)	新型コロナウイルスの影響で2月中旬より宴会のキャンセルが多く発生している。3月に入り政府からの要請によりキャンセルに拍車がかかった。インバウンドはほぼ皆無となり、特に都心部の営業数値への影響は大である。
×	観光型ホテル(支配人)	全社合計での減収は前年比70%ダウンとなっている。それだけではなく4月も一般宴会、宿泊宴会共にキャンセルが断続的に入ってきており、現時点で前年の2割ほどしか受注できていない。ゴールデンウィーク中の催事を含め、この先どうなるのか気が気でない有様となっている。
×	旅行代理店(営業担当)	新型コロナウイルスの影響を直接的に受けている。2月中旬からキャンセルの連絡が相次ぎ、1か月間で3~4月出発の団体旅行の約95%がキャンセルとなった。

- ▶ 少数ではあるが、消費者のまとめ買いによる売上の増加を指摘するコメントもある。

◎	スーパー(総務担当)	新型コロナウイルスの影響により、濃厚接触を回避するため、百貨店利用者がスーパーに流れ、紙類、酒類、休校による子供の昼食の冷凍食品やインスタント食品のまとめ買いで売上点数が増加した。
○	スーパー(商品開発担当)	新型コロナウイルスの影響から、ラーメン、米飯やパスタなど保存が利く食料品を中心に売上が上がり、前年比105%に伸長している。

【企業動向・雇用関連】

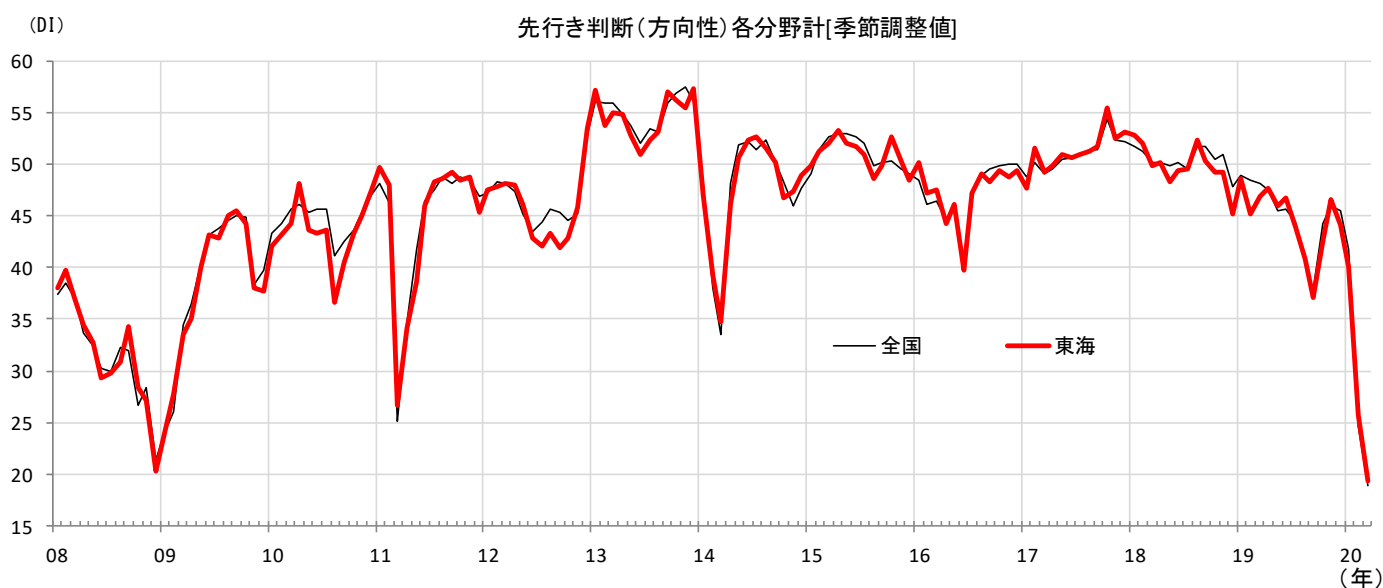
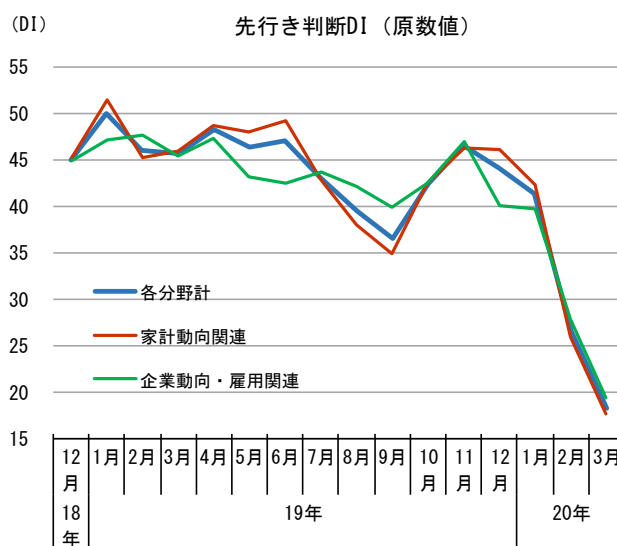
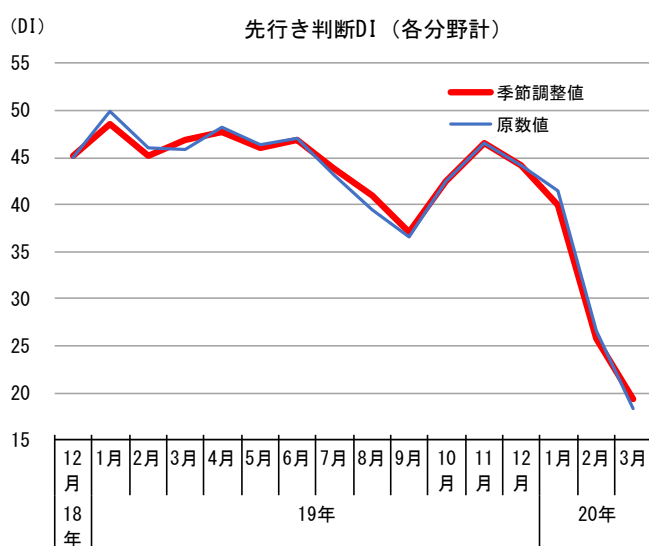
- ▶ 企業動向・雇用関連でも、大幅な落ち込みが続いている。

×	鉄鋼業(経営者)	例年だと年度末の駆け込み受注があってもよい時期であるが、3月に入ってから特に受注量、販売量共に2月に比べて2割ほど落ちている。前年同月比でも2割ほど落ち込みがみられる。
×	一般機械器具製造業(営業担当)	北米で大手自動車メーカーが操業を停止したことにより、関連会社や部品製造メーカーからの引き合いが全てなくなった。
×	会計事務所(職員)	新型コロナウイルスによる影響で、特にサービス業において来客数の減少等に伴い売上が低迷する企業が増えてきている。金融機関の関係者からも、資金繰りの厳しい取引先が増えて融資の案件が増加していると聞く。
×	人材派遣会社(企画統括)	新型コロナウイルスの影響で採用活動を見送る動きが広がっている。

2. 景気の先行き判断 (2~3ヶ月先の見通し、方向性)

(1) DIの動向

- 2~3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI (各分野計: 季節調整値) は、前月差-6.5ポイントの19.3と大幅に低下し(4ヶ月連続)、横ばいを示す50を18ヶ月連続で下回った。リーマンショック後の2008年12月(20.3)を下回る低水準となった。新型コロナウイルス感染症への懸念がさらに高まっている。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同-8.3ポイントの17.7と4ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を14ヶ月連続で下回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同-8.5ポイントの19.4と4ヶ月連続で低下し、横ばいを示す50を18ヶ月連続で下回った。



(2) ウォッチャーのコメントから読み取る景気動向

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎: 良くなる、○: やや良くなる、□: 変わらない、▲: やや悪くなる、×: 悪くなる

【家計動向関連】

▶ 新型コロナウイルス感染症の収束が見えない中、悲観的なコメントが大半である。

▲	乗用車販売店(営業担当)	新型コロナウイルスにより経済活動がストップしてくるため、景気は悪化すると見込む。
▲	一般レストラン(経営者)	やはり新型コロナウイルスの影響が気になる。政府が緊急事態宣言を発表したら大変である。できれば現状のままで持ちこたえてほしい。
×	商店街(代表者)	このままの状況なら廃業である。
×	一般小売店[酒類](経営者)	新型コロナウイルス終息後も飲食店への客足はしばらく回復しないと考える。客から残業代がないから、しばらくは来られないとの声がある。
×	乗用車販売店(従業員)	新型コロナウイルス感染拡大の懸念が収まらなると、客との会話もできない。先行き不安から高額商品購入への意欲が感じられず、購買に対して客は慎重になっている。
×	人材派遣会社(営業担当)	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、各社が新規派遣採用を控えている。今月までは次年度に向けた採用計画どおりに動く企業が多かったが、先行きが分からなくなり、慎重になっている。
×	民間職業紹介機関(営業担当)	新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない状態の中で、採用マーケットの動きには不確実性が非常に高く、大手企業を始めとして募集再開のめどが立たない。

【企業動向・雇用関連】

▶ 企業・雇用関連のコメントでも、ほぼ悲観一色だ。現状維持のコメントでも、今の悪い状況が続くと見ている。

□	一般機械器具製造業(営業担当)	凍結された設備投資計画が復活するのは、新型コロナウイルスによる操業停止が終了し、更に数か月たってからと見込まれる。
×	鉄鋼業(経営者)	モノづくりの業界は、予約キャンセルなど飲食業ほどのダイレクトな影響はまだない。しかし、今後は海外を含む工場の休止などで直接的な影響が出てくると見込む。どこまで落ちるかは未知数である。
×	輸送用機械器具製造業(総務経理担当)	自動車部品のサプライチェーンの寸断が今よりひどくなる。自身のところで部品を作っても他社で作れなければ車が生産できないため、当分景気は悪いと見込まれる。
×	鉄鋼業(経営者)	モノづくりの業界は、予約キャンセルなど飲食業ほどのダイレクトな影響はまだない。しかし、今後は海外を含む工場の休止などで直接的な影響が出てくると見込む。どこまで落ちるかは未知数である。
×	人材派遣会社(営業担当)	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、各社が新規派遣採用を控えている。今月までは次年度に向けた採用計画どおりに動く企業が多かったが、先行きが分からなくなり、慎重になっている。
×	民間職業紹介機関(営業担当)	新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない状態の中で、採用マーケットの動きには不確実性が非常に高く、大手企業を始めとして募集再開のめどが立たない。

景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
 - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
 - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
 - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の 3 項目。
 - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
 - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
 - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1) (2) については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の 5 段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じて D I を算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、D I は 50 となるため、D I = 50 が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0. 7 5	+ 0. 5	+ 0. 2 5	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の 4 県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府 HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

－ ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。